

高校生 ICT Conference 2014

～考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方～

高校生 ICT Conference 2014 in 大分 開催報告書

第一回 2014年8月30日(土)

【会場】ホルトホール大分

主催・共催

一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

2014年8月30日

第1版

目 次

1. 開催概要	1
2. 高校生 ICT Conference 2014 in 大分 第一回 開催概要	4
3. 担当	8
4. Conference の成果物と終了後の対応	8

1. 開催概要

名 称：	高校生 ICT Conference 2014 ～考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方～ 第1回 「小中学生に伝えたい 情報モラル」 第2回 「2020年のICT環境を創造する」
主催・共催：	一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 安心ネットづくり促進協議会 大阪私学教育情報化研究会
共催（奈良のみ）：	帝塚山大学
後援：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省 北海道、奈良県、北海道教育委員会、奈良県教育委員会、大分県教育委員会 北海道青少年有害情報対策実行委員会 全国高等学校情報教育研究会、東京都高等学校情報教育研究会 大阪府高等学校情報教育研究会、奈良県情報教育研究会 独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 一般社団法人全国高等学校PTA連合会、一般社団法人ソーシャルゲーム協会 一般社団法人電気通信事業者協会 一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会 特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構
協賛：	グーグル株式会社、グリー株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー 株式会社メディア開発綜研、LINE 株式会社、株式会社中部トータルサービス
協力：	一般財団法人日本脳力研究協会、NPO 法人企業教育研究会 一般社団法人情報教育研究所、アルプス システム インテグレーション株式会社 株式会社インテグラル、株式会社内田洋行、株式会社NTT ドコモ 株式会社ガイアックス、KDDI 株式会社、株式会社サイバーエージェント ソフトバンクモバイル株式会社、デジタルアーツ株式会社、株式会社 BITS PUZZLE 株式会社ミクシィ、ワイモバイル株式会社
開催目的：	高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。今年度も昨年同様 5 拠点にて開催し、より全国的な規模での展開に向けて進めています。 高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインター

	<p>ネット利用環境の構築の一助とすることです。さらに当事者たる高校生の意見を中央に届けるべく、各地域の代表者はサミットにより提言をまとめ、内閣府、総務省、文部科学省で発表致しました。2014年度も引き続き5拠点にて開催し、広い地域の、高校生ならではの意見を政府に届けるべく、開催を予定しています。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政府に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
<p>高校生 ICT Conference 2014 の開催 会場・日程：</p>	<p>高校生 ICT Conference 2014</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生 ICT Conference 2014 in 北海道 <ul style="list-style-type: none"> 第一回 2014年9月28日（日）13:30-17:00 第二回 2014年10月19日（日）13:30-17:00 （会場）札幌 ユビキタス協創広場 U-cala 北海道札幌市中央区北1条東4丁目1-1 サッポロファクトリー1条館1階 ・高校生 ICT Conference 2014 in 東京 <ul style="list-style-type: none"> 第一回 2014年9月7日（日）13:30-17:00 第二回 2014年10月4日（土）13:30-17:00 （会場）東京ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行） 東京都中央区新川 2-4-7 ・高校生 ICT Conference 2014 in 大阪 <ul style="list-style-type: none"> 第一回 2014年7月21日（月）13:30-17:00 第二回 2014年10月4日（土）13:30-17:00 （会場）大阪ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行大阪支店） 大阪市中央区和泉町 2-2-2 ・高校生 ICT Conference 2014 in 奈良 <ul style="list-style-type: none"> 第一回 2014年7月27日（日）13:30-17:00 第二回 2014年8月24日（日）13:30-17:00 （会場）帝塚山大学 第一回：奈良・学園前キャンパス 奈良県奈良市学園南 3-1-3 第二回：奈良・東生駒キャンパス 奈良県奈良市帝塚山 7-1-1 ・高校生 ICT Conference 2014 in 大分 <ul style="list-style-type: none"> 第一回 2014年8月30日（土）13:30-17:00 第二回 2014年9月27日（土）13:30-17:00 （会場）ホルトホール大分 大分県大分市金池南 1 丁目 5-1

	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生 ICT Conference 2014 サミット（各地域の代表者による熟議） 2014年11月3日（月） 13:30-17:00 （会場）東京ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行） 東京都中央区新川 2-4-7 ・最終報告会（サミットでの取りまとめを提言として関係府省等に報告） 2014年12月16日（火） 内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 総務省、文部科学省、経済産業省 他（予定）
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一回 「小中学生に伝えたい 情報モラル」 (1) 挨拶 (2) 講演 (3) 熟議イントロダクション (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 ・第二回 「2020年のICT環境を創造する」 (1) 挨拶 (2) 講演 (3) 熟議 (4) グループ発表 (4) 総評 (5) サミット参加者発表 <p>【サミット】「考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方」 (1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】 内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」 総務省、文部科学省、経済産業省にて成果・提言報告及び意見交換</p>
高校生 ICT Conference 2014 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋正夫（一般社団法人全国高等学校PTA連合会 元会長・一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構代表理事） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米田謙三（大阪私学教育情報化研究会副会長、私立羽衣学園高等学校） ・更科幸一（プレゼンピック、私立自由学園高等科） ・齋藤長行（青山学院大学 ヒューマン・イノベーション研究センター 客員研究員） ・鎌田真樹子（熟議懇談会委員、違法・有害情報相談センターアドバイザー） ・佐藤喜信（株式会社内田洋行 教育総合研究所） ・石原友信（安心ネットづくり促進協議会 事務局） ・吉岡良平（社）モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 事務局） ・他、関係者団体、事業者等 <p>【スーパーバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平野翔大（慶應義塾大学） ・金子真志（目白大学） <p>【事務局】 一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構 事務局 吉岡良平 yoshioka_r@ema.or.jp 03-6913-9235 東京都港区西麻布 1-4-38 千歳ビル3階</p>

2. 高校生 ICT Conference 2014 in 大分 第一回 開催概要

概要	<p>第一回は高校生、教員、企業関係者など 91 名の参加者を得て、「小中学生に伝えたい 情報モラル」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>【リアル熟議】</p> <p>・第一回 「小中学生に伝えたい 情報モラル」</p> <p>開会の挨拶</p> <p>内閣府 政策統括官（共生社会政策担当）付参事官補佐 鈴木 敦 様</p> <p>まず始めに、内閣府の鈴木様から開会のご挨拶をいただきました。鈴木様からは、高校生 ICT Conference が、高校生の言葉を直接内閣府の会議において提言として伝えることができるユニークな取組みであること、また、内閣府がどういったことを行っている組織なのかについて、分かりやすくご説明いただきました。</p> <p>第一部：事業者による講演</p> <p>事業者の皆さんに、本日のテーマである「小中学生に伝えたい 情報モラル」に基づいて、ヒントとなるお話しや様々な事例をご説明いただきました。また、各社において実施されているネットにおける青少年保護の取組みや、会社での仕事の模様について、動画等を使いながらご紹介をいただきました。高校生だけでなく、参観者の皆さんにも大変ためになるお話しでした。</p> <p>『「高校生の思いや考え×コミュニケーションの力」で社会にムーブメントを！』</p> <p>株式会社ミクシィ 経営推進本部 CS 推進室 井上 真由美 様</p> <p>「楽しいコミュニケーションを考えよう ～知識と意識と、人とのちがいは～」</p> <p>LINE 株式会社 高橋 誠 様</p> <p>「これからのネット社会を生きぬく力とは？</p> <p style="text-align: right;">～デジタルネイティブな皆さんへ～</p> <p>株式会社ディー・エヌ・エー 渉外部 朝倉 孝之 様</p> <p>各プレゼンの内容は非常にユニークなものもあり、時には真剣に、また時には笑いを交えながらご説明いただきました。参加生徒はメモをとりながら事業者の皆さんの講演を真剣に聞き、次の熟議に備えていました。</p> <p>参加校 学校紹介 および グループ分け</p> <p>まず、司会より本日の熟議のテーマや ICT Conference の進め方に関する説明がありました。その後、各参加校のリーダーが、学校の紹介と今日の意気込みを発表しました。どの学校もやる気にみなぎっています。</p> <p>また、ファシリテーターや書記の皆さんからも自己紹介をいただき、グループ分けして5つに分かれて熟議を開始しました。</p> <p>第二部：熟議「小中学生に伝えたい 情報モラル」</p>
----	--

グループに分かれた後、大分の関係者や学校の先生がファシリテーターや書記となり、熟議を開始しました。

まず、各グループメンバーで自己紹介を行い、参加している高校生の緊張感も徐々に和らいできました。高校生の皆さんは、司会より説明のあった3つのテーマ

(1. 自分たちが考えるネット関係の課題・問題点、2. 高校生ができる情報モラル教育、3. 「なぜ」自分たち高校生は2で考えた情報モラル教育ができるのか) についてポストイットに書き出し、模造紙に考えをまとめていきました。まとめる模造紙のスペースが足りなくなる程、沢山の意見が高校生から出され、限られた時間の中で発表する内容を吟味、まとめていきます。

プレゼンいただいた企業の方や関係者の方もサポーターとしてグループの検討の輪に入り、時には質問に答えて、また時には検討のヒントになる情報をご提供いただきました。

少しだけ時間をオーバーしてしまうグループもありましたが、ほぼ予定どおりの時間で発表内容をまとめることができました。

※第二部の熟議の詳細は別紙「熟議録」をご参照ください。

第三部: グループ発表

・グループ発表 (各グループ3分程度)

発表したいグループに挙手をしてもらい、発表の順番を決めました(発表順は、2班、1班、5班、4班、3班の順)。

発表では、高校生は小中学校生と同じ立場にたって情報モラルを教えることができる!!といった主張や、イラストを交えて分かりやすく説明を行うグループ等、各グループが個性を出し合って発表をしてくれました。また、小中学生に何を伝えるべきか(自分達自身が加害者になる可能性がある、無料通話アプリでのトラブル等)、またどのような方法で伝えるのか(劇や紙芝居等)についても、様々な意見が出されました。

講評: 大分県教育委員会 教育次長 落合 弘 様

大分県教育委員会の落合様より、本日の ICT Conference に関する講評をいただきました。ネットは大変便利なものであるが、自分や他人を苦しめることや傷つけるケースがあることを、事例を交えてお話しいただきました。また、今後どうやってこの問題を解決していくかは高校生の皆さんにかかっているといった点や、今日の ICT Conference の発表を聞いて光明が見えたといった点についてもお話しをいただきました。

最後に、司会より次回の予告や今後の予定について紹介があり、第一回大分の高校生 ICT Conference を終了しました。

参加校:

[大分県]

大分県立大分豊府高等学校、大分県立大分鶴崎高等学校、
大分県立情報科学高等学校、大分県立別府青山高等学校、
大分県立大分工業高等学校、大分県立大分南高等学校、

	大分県立大分雄城台高等学校、大分県立宇佐産業科学高等学校、 大分県立佐伯鶴城高等学校、大分県立由布高等学校、 大分県立大分舞鶴高等学校、大分国際情報高等学校
日 時：	2014年8月30日(土) 13:30-17:45
場 所：	ホルトホール大分(大分県大分市金池南一丁目5番1号)
参加人数：	熟議参加生徒 43人 見学者 48人(教員・教育関係者21人 その他27人) 合計：91人
熟議グループ：	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【第1班】9人 大分国際情報高等学校 2年 女子 大分県立大分南高等学校 2年 女子 大分県立別府青山高等学校 3年 男子 大分県立別府青山高等学校 3年 女子 大分県立宇佐産業科学高等学校 3年 男子 大分国際情報高等学校 1年 男子 大分県立大分鶴崎高等学校 3年 男子 大分県立大分工業高等学校 3年 男子 大分県立大分南高等学校 3年 男子 〔ファシリテーター〕 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 七條 麻衣子 〔書記〕 大分国際情報高等学校 教諭 森竹 悠介 【第2班】9人 大分県立情報科学高等学校 2年 女子 大分県立別府青山高等学校 3年 女子 大分県立別府青山高等学校 3年 男子 大分県立大分舞鶴高等学校 1年 男子 大分県立大分南高等学校 2年 女子 大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子 大分県立大分工業高等学校 3年 男子 大分国際情報高等学校 1年 男子 大分県立佐伯鶴城高等学校 1年 男子 〔ファシリテーター〕 公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 共同研究員 兼 大分県立芸術文化短期大学特任教授 凍田和美 〔書記〕 大分大学 首藤 麻衣 【第3班】9人

大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子
大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子
大分県立情報科学高等学校 2年 女子
大分県立情報科学高等学校 3年 女子
大分県立大分舞鶴高等学校 1年 女子
大分県立佐伯鶴城高等学校 1年 男子
大分県立佐伯鶴城高等学校 1年 男子
大分県立大分豊府高等学校 2年 男子
大分県立由布高等学校 3年 男子
〔ファシリテーター〕
大分県立別府青山高等学校 教諭 畑野 新司
〔書記〕
公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 芳崎 哲也

【第4班】8人

大分県立大分舞鶴高等学校 1年 女子
大分県立情報科学高等学校 2年 女子
大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子
大分県立大分雄城台高等学校 1年 女子
大分県立由布高等学校 3年 女子
大分県立由布高等学校 3年 女子
大分県立大分豊府高等学校 2年 男子
大分県立大分工業高等学校 3年 男子
〔ファシリテーター〕
大分県立大分豊府高等学校 教諭 釘宮 教行
〔書記〕
公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 原田 美織

【第5班】8人

大分県立情報科学高等学校 2年 女子
大分国際情報高等学校 2年 女子
大分県立大分工業高等学校 3年 男子
大分県立由布高等学校 3年 男子
大分県立由布高等学校 3年 女子
大分県立宇佐産業科学高等学校 3年 男子
大分国際情報高等学校 1年 男子
大分県立大分南高等学校 3年 男子
〔ファシリテーター〕
公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 渡辺 律子
〔書記〕
中津市教育委員会 黒川 智子

3. 担当

EMA	清水	司会進行
EMA	野沢	事務局、庶務
安心ネットづくり促進協議会	吉村、池田	受付、記録（撮影）
各地協力団体、事業者等	渡辺他	ファシリテーター・書記手配、現地調整、講演等
大分県高等学校 PTA 連合会	三浦他	会場、機材準備等

4. Conference の成果物と終了後の対応

- 1) 書記は、PC を使い、Word やメモ帳で Conference の内容を記録。
- 2) グループ発表の画面の撮影（又は画像保存）
- 3) Conference 終了後、書記が記録した各グループの Conference 内容を PDF 化し、発表の画像と併せて、高校生 ICT Conference 2014 のサイトにアップデート
- 4) 第二回終了後、講評と併せて、各会場責任者にて取りまとめ
- 5) 高校生 ICT Conference 2014 サミット終了後、米田先生にて取りまとめ
- 6) 高校生 ICT Conference 2014 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 7) 最終報告会での発表